

事業結果説明書

1 事業の実施期間

平成29年4月1日から平成30年3月30日

2 実施団体

(1) 本事業を実施した団体名等

団体名 特定非営利活動法人 翔和学園

所在地 【主たる事業所】 東京都中野区中央1-38-1 アクロスシティ中野坂上ビル

【従たる事業所】 長野県長野市若里7-1-7 長野県社会福祉総合センター

代表者名 望月昭彦

団体等の設立・設置・活動開始年度 平成19年

3 調査研究内容

(1) 事業テーマ

『特別支援を要する子どもたちのための統合的な運動プログラムづくり』

(2) 事業の趣旨（特に重点を置くところ）

本事業においては以下を重点課題として実施した。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①学習時の姿勢の状態から身体・感覚の問題を把握するためのアセスメントの作成②各領域の専門家との連携体制の充実 |
|---|

①学習時の姿勢の状態から身体・感覚の問題を把握するためのアセスメントの作成

年度当初の計画においては、前年度事業で明らかになった課題に基づき「簡易的な運動機能アセスメントの作成」「子どもの行動特徴に基づく感覚・運動機能の発達に関するスクリーニングテストの作成」の2点を重点課題として設定した。

いずれも公立学校での実施を前提として想定していたものの、企画検討会議においては、公立小学校の普通学級担任が実施するのは困難なのではないかという結論にいたった。運動機能のアセスメントについては、場の設定を必要とする点や評価に際して専門的知識と経験が必要になってしまう点が課題として指摘された。スクリーニングテストについては、観察場面を相当に限定しなければクラス全員について評価をすることは学級担任にとって相当の負担になってしまうという課題が指摘された。

そのため、普通学級担任にとって親和性の高い学習場面でアセスメントを実施する事が出来れば、より簡便性が増し、活用しやすくなる考えた。

②各領域の専門家との連携体制の充実

身体・感覚の問題を把握した上で解決するためには、作業療法士・理学療法士等の専門家の介入が必要不可欠である。

より正確な実態の把握し、効果的な介入を行うために、作業療法士が週1回、理学療法士が月に2回教室に入るかたちで、教員と連携して支援を行う体制をとった。

(3) 事業内容及び方法

事 業 の 内 容 等
<p>1. 対象者</p> <p>(1) 翔和学園に在籍する発達障害児・者</p> <p>小学生 : 10名 中学生 : 8名 高校生 : 3名</p> <p>(2) 翔和学園の学習塾GIFTに在籍する発達障害児 本年度は希望者がいなかったので実施せず。</p> <p>(3) 公立小学校に在籍する小中学生 ・2017年度に入った後、合同で研究会・研修会を実施していた教員に協力を依頼していったが、準備の難しさ、見取りの難しさなどから一件の事例報告のみとなった。</p>
<p>2. 実施内容および方法</p> <p>(1) 運動プログラムの実施</p> <p>【内 容】表1の通り 【開始時期】2017年7月より実施</p> <p>(2) 作業療法士・理学療法士との協働によるアセスメント・個別的介入 作業療法士がアセスメントシートを作成(表2)。それをもとに、運動専従教員が日常的に運動、支援を行った。また、理学療法士の個別運動プログラムの作成や全体への運動プログラムへのアドバイスをもらう際の参考にしていった。</p> <p>(3) 学習時の姿勢の状態から身体・感覚の問題を把握するためのアセスメントの作成 (2)に基づいて、21名の状況を分析し、アセスメントを作成。</p> <p>(4) 企画検討会議の開催</p> <p>【開催日程】9月・3月に実施 【検討内容】課題の整理・方針の検討 【参加者】調査研究委員会メンバー</p>

表1：運動プログラムのメニュー

	メニュー	目的	期待する効果
毎日実施 (40分間)	あいうべ体操	脳幹レベルで司っている呼吸を安定させる	<ul style="list-style-type: none"> 視覚に依存しないで口腔機能を側通し、主に固有受容覚を使い、筋の協調運動を行う。 口輪筋、表情筋を鍛えることで口を閉じた状態を保持できるようにする。 舌筋や舌骨筋群を鍛える事で舌を正しい位置に引き上げる。これにより、口呼吸から免疫力が向上する鼻呼吸へと変化させていく。
	眼球運動	眼球運動機能を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> サッケードボードやブロックストリングスなどを使って、固視・輻輳・追従性眼球運動・衝動性眼球運動・ピント調節機能のトレーニングを行う
	ブレインジム	右脳と左脳の結合を促す	<ul style="list-style-type: none"> 身体交差運動、上下肢の協調運動、タイミングなどの速度の調整を行う。 呼吸を能動的に行うことで脳幹への働きかけを行う。
	ジョギング	固有覚を強制的に使うような運動を実施する	<ul style="list-style-type: none"> 上下肢の協調運動、タイミングなどの速度の調整 太陽光に当たる事で、脳幹で司っている睡眠、覚醒に働きかける。
	ヨガ(呼吸)	呼吸を整えるために、動きと呼吸を連動させることで自分が呼吸していることを意識する	<ul style="list-style-type: none"> スローモーションと繰り返すにより、運動を自動化していく。 胸椎と肩甲骨をストレッチすることで呼吸しやすくする。
	感覚統合サーキット	脳幹を通過する感覚神経系を刺激し、中脳・間脳レベル皮質レベルの統合を図る。	
毎週水曜日	武術	易筋経や型などの動きの中で、スローモーションと繰り返すにより、運動を自動化していく	<ul style="list-style-type: none"> ミット打ちなどで高閾値の触覚刺激、固有受容覚刺激を入力する。 バランスを必要とする動きの中で、前庭覚刺激、固有受容覚刺激を入力する。
随時	個別プログラム	小中学生向けに個別プログラムを実施。	<ul style="list-style-type: none"> 小学生週2回、中学生1回
	ヨガ	外部協力者のヨガ講師林氏により、呼吸と体幹を整えるヨガを実施	<ul style="list-style-type: none"> スローモーションと繰り返すにより、運動を自動化していく。 胸椎と肩甲骨をストレッチすることで呼吸しやすくする。

表2 : アセスメントシート

OT評価(まとめ)と支援方針

氏名 _____ 学年 _____ 作成日: 2017年 月 日 作成者 _____

主訴	本人) _____	保護者) _____	学校) _____
診断名	_____ (I) _____ (II) _____		
生年月日	出生時) _____ 歳 _____ 月 _____ 日	現在) _____ 歳 _____ 月 _____ 日	特性事項 _____

各種検査結果

WISC-IV	FDIQ	VIQ	PIQ	PTOT	PTOT
FVPT-II	読書	文章理解	図形補正	文章性	語彙
VMI-6th					

OT評価 実施日: 2017年 月 日 (歳 _____ 月 _____ 日) ※検査結果詳細は別紙参照

検査結果	心身機能・発達	運動と参加	環境因子																															
	<p>SP</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>高機能</td><td>言葉理解</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>文章理解</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>低機能</td><td>文章理解</td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td>文章理解</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>ICD</p> <ul style="list-style-type: none"> _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ 	高機能	言葉理解				文章理解			低機能	文章理解				文章理解			<p>SP</p> <ul style="list-style-type: none"> _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ _____ <p>SP-IC</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>_____</td><td>_____</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td></tr> <tr><td>_____</td><td>_____</td></tr> </table> <p>V</p> <ul style="list-style-type: none"> _____ _____ _____ _____ _____ 	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____	_____
高機能	言葉理解																																	
	文章理解																																	
低機能	文章理解																																	
	文章理解																																	
_____	_____																																	
_____	_____																																	
_____	_____																																	
_____	_____																																	
_____	_____																																	
_____	_____																																	
_____	_____																																	
_____	_____																																	
課題	個人因子																																	
備注																																		

支援方針(OTからの提案)

--	--	--

4 調査研究の成果等

(1) 学習時の姿勢の状態から身体・感覚の問題を把握するためのアセスメント

学習中の姿勢を元に、中枢部の安定性や身体コントロールの弱さ等によってタイプ別に分類できるチェックシートを作成。さらに、日常生活上の困り感を身体・感覚の問題と関連付けて把握するためのチェックシートを作成。

※後日成果物として提出

(2) 5分で出来る準備運動プログラム

身体・感覚に問題が生じている児童・生徒に対して必要な要素を入れた準備運動プログラム。問題が無い児童・生徒に対して行っても、身体能力の向上が見込まれる。主に胸椎の回旋と中枢部の筋肉(肩甲帯・大臀筋・大腰筋)を促通し動きをよくする運動。

※後日成果物として提出

(3) 今後の課題

今回作成したアセスメント・チェックシートならびに準備運動プログラムは21名の事例をもとに作成した。

今後は、公立小学校教員との合同の研究会メンバー等に協力を依頼し、事例を集めていく。その中で今回の成果の検証ならびに精度の向上をさせていく必要がある。

また、企画検討会議において委員より提案のあった各地域の特別支援部会とも連携等、より広く活用されるように試みていく。

そして、今まで見逃されていた子どもの困り感が把握されることにより、公立小学校の普通学級等においても外部専門家の活用がより一層進み、子どもたちへの教育・支援が充実していくことを目指したい。

5 調査研究実施過程

実施時期	内 容	摘 要
7月6日(木)	運動プログラム開始	翔和学園内でのプログラム開始
7月～9月	作業療法士による詳細アセスメントの実施	翔和学園内でのアセスメントの実施
7月11日(火)	特別授業「ヨガを通じた身体へのアプローチ」 ※以降月2回のペースで実施(計12回)	
7月12日(水)	特別授業「武術を通じた身体へのアプローチ」 ※以降週1回のペースで実施(計18回)	
9月21日(木)	第一回企画検討会議	2017年7月からの実践を総括し、計画を修正
10月6日(金)	特別授業「運動機能の向上を目指す理学療法からのアプローチ」※以降適宜実施(計11回)	
3月8日(木)	第二回企画検討会議	

6 事業担当者

【事務局】

役職等	氏名	勤務先	勤務先所在地・電話番号
代表	伊藤寛晃	NPO法人翔和学園	【所在地】 東京都中野区中央1-38-1 アクロスシティ中野坂上ビル 【電話】 03-5338-0338
事務局	中村朋彦	NPO法人翔和学園	
経理	南茉莉	NPO法人翔和学園	

【調査研究委員会】

	氏名	所属・職名	所在地・電話番号
委託団体	伊藤 寛晃	学園長	東京都中野区中央1-38-1 アクロスシティ中野坂上ビル 03-5338-0338
	遠藤 知成	翔和学園教員（運動プログラム専従）	
	向井 綾	翔和学園小中学部・高等部教員	
	石川 裕美	翔和学園小中学部・高等部教員	
	本多 和子	翔和学園臨床心理士	
外部協力者	宮尾 益知	どんぐり発達クリニック院長 NPO法人ギフトッド研究所理事長 NPO法人翔和学園 顧問	東京都世田谷区大蔵2-10-1 03-3416-018
	福田 恵美子	長野保健医療大学保健科学部 ハビリテーション学科 作業療法専攻教授	長野県長野市川中島町今井原 11-1
	稲葉 美穂	作業療法士	栃木県下野市緑 4-6-8
	林 由美	E-RYT200®YACEP®正式認定 ヨガインストラクター	東京都千代田区三番町 7-1-201

【特別授業外部講師】

氏名	所属・職名	特別授業	所在地・電話番号
小林 直樹	櫻公路伝中国拳法・大気拳	特別授業 「武術を通じた身体へのアプローチ」	東京都北区志茂 4-29-7-203
高橋 佑侍	理学療法士 JARTAinternational トレーナー	特別授業 「運動機能の向上を目指す理学療法からのアプローチ」	

7 連絡担当者

所属・役職等 NPO 法人翔和学園
 所在地 東京都中野区中央1-38-1 アクロスシティ中野坂上ビル2F
 電話番号 03-5338-0338
 FAX番号 03-3365-5401
 e-mail nakamura@showa-gakue.net
 氏名 中村 朋彦